

秋水通信

第21号
(会報合併第1号)

2016. 12. 7

幸徳秋水を顕彰する会
四万十市右山五月町 8-22
四万十市立中央公民館
TEL 0880-36-2778 (田中)

HP: <http://www.shuusui.com/>
mail: zen-tanaka@heart.ocn.ne.jp

秋水孫 105年目の墓参

「秋水最初の妻と子、孫たち」については、前号(会報17号)で紹介しましたが、その中の孫2人が5月10〜12日、秋水墓参にみえました。

最初の妻(西村ルイ)も娘(小谷ハヤ子)も来ていませんので、肉親として、秋水刑死105年目にして、初めての墓参となりました。

2人は、真野寿美子さん(埼玉県、大



孫2人秋水墓前に

正14年生、90歳)と犬竹比佐子さん(東京都、昭和16年生、74歳)で、旧姓は小谷ともにも夫も同行。

幸徳秋水を顕彰する会久保知章会長以下で正福寺墓地に案内しました。

2人は、「秋水に会わせなかった」と祖母(ルイ)の写真を持参。一緒にじつと手を合わせました。

東京から同行した幸徳正夫さん(秋



絶筆碑前

水の義兄駒太郎ひ孫、写真中央)が幸徳家を代表して墓前で挨拶し、その中で秋水生涯の汚点、ルイを離縁するにさいしての非礼を詫びました。

墓参をすませたあとは、秋水生家跡記念碑(絶筆碑)、郷土資料館、秋水資料室(図書館)を案内。

宿泊ホテルでは、歓迎昼食会を開いたほか、夜も地元料理を囲んで交流を深めました。

清流四万十川のシンボル佐田沈下橋も渡ってもらい、祖父秋水のふるさとの景色を目に焼き付けてもらいました。

車イスの姉寿美子さんは、「これが最後になると思いますが、来て本当によかった」としみじみと語られ、妹比佐子さんは、「秋水のことはずっと身内と思ってきました。地元のみなさんの取り組みに接し、改めて秋水の偉大さを知らされました」と、納得された様子でした。

2人からは秋水顕彰会に対して多額の寄付をいただきました。

恩讐を超えた墓参。墓前で秋水に代わって正夫さんが詫びたことで、秋水顕彰会としては長年の胸のつかえが下りました。2人には心からのお礼を申し上げます。

今回の墓参の様子は地元新聞でも大きく報道されました。

顕彰会でも記録DVD(20分)を作成しましたので、ご希望の方はご連絡ください。

なお、今回は東京から「大逆事件の真実をあきらかにする会」世話人の大岩川嫩さんも同行されました。

大逆事件サミットin大阪 秋水ひ孫参加

第3回目になる大逆事件サミットが10月22日、大阪市で開かれ、中村からは5人参加しました。

事務局は「管野須賀子を顕彰し名誉回復を求める会」が務め、会場も須賀子がキリスト教洗礼を受けた天満教会。

全国から16団体140人が集まり、第1回(中村)、第2回(福岡県豊津)から着実に増えています。

シンポジウム「管野須賀子と大逆事件」(山泉進、荒木伝、井口智子、田中伸尚)、各団体報告、交流会、翌日のフィールドワーク(三浦安太郎墓、須賀子住居跡)と続きました。

秋水孫墓参の縁で、「秋水ひ孫」の小谷美紀さん(ハヤ子長男正昭氏次女、写真中央)も埼玉県から参加、交流を深めることができました。

真ん中 小谷美紀さん(秋水ひ孫)



真ん中 小谷美紀さん(秋水ひ孫)

秋水の師 儒学者

木戸明 没後

100年

9月13日は幕末維新期、中村が生んだ儒学者木戸明(きどめい)没後100年にあたった。

明は幸徳秋水幼き頃の師。そこで秋水顕彰会と四万十市教育委員会では、木戸明墓(正福寺秋水墓隣)に次のような解説板を連名設置した。

木戸明(1834~1916)
儒学者。通称駒次郎、号鶴洲。18歳で京の巖垣月洲に入門し国学経書を学ぶ。帰国後勤王倒幕に参加。海防のための大砲を製造。維新後は遊焉義塾を開き地元教育に専念。幸徳秋水、吉松茂太郎、安岡雄吉・秀夫兄弟ら門弟多数。中村中学、高知中学でも教え、高知の教え子に濱口雄幸、野村茂久馬らがいる。書や漢詩に堪能で詠詩、揮毫も多い。



木戸明墓 解説板設置



記念講演会

また、木戸明ひ孫木戸秀雄氏(秋水顕彰会会員、元高校教員)を講師に「教育者木戸明の生涯」と題した「木戸明没後100年記念講演会」も開いた。

市立中央公民館の会場には、木戸家所蔵の書や写真、師の巖垣月洲、親交のあった間崎滄浪や梁川星巖らの書も展示され、市民など約90名が集まった。

秋水は9歳から明の私塾(遊焉義塾)で学んだ。最初に「孝経」の素読から、次に「三國志」「唐詩選」へ。東洋的儒学思想を学ぶ。秋水はずばぬけて秀才だった。

のちの秋水の格調高き漢文体の文章は、ここに淵源がある。

秋水が「社会主義神髓」を出版したさい、明に贈った葉書が郷土資料館に展示されている。

四万十市民大学

黛まどかさん講演

9月8日、四万十市民大学では、俳人黛まどかさん講演「言葉の力、余白の力」を開いた。

まどかさんは神奈川県湯河原町生まれ。おじい様が秋水最後に逮捕された天野屋旅館の番頭をされていたことなどから秋水に関心をもち、過去中村に取材にみえたことがある。そうした縁から秋水顕彰会会員になつていく。講演でも冒頭そのことにふれられた。

秋水墓参もされ、「十六年ぶりにお参りさせていただきました。戦わずして平和な社会を私たちの世代で実現させなくてはいけないと、あらためて思います」と記帳された。

まどかさんが秋水を詠んだ句。

夏怒涛真つ向うにしていごっそう

秋水史跡めぐり

市教育委員会と共催

一般市民にも秋水をよく知ってもらおうと、11月12日、市教育委員会と共催で「秋水史跡めぐり」をおこなった。市広報で案内。

久しぶりの企画だったが、37人の参加があり、市手配マイクロバスに乗り切れず、乗用車にも分乗した。

公民館で記録DVD「秋水の孫105年目の墓参」を見た後↓生家跡↓木戸明・安岡良亮邸跡↓絶筆碑↓郷土資料館↓秋水墓、坂本清馬墓、木戸明墓↓図書館資料室、とぐるり回った。顕彰会役員が交代で説明。

一般市民は地元においても、まとめては回りにくいという声もあり、好天にも恵まれ好評であった。



秋水生家跡



まどかさんを囲んで

岡林寅松墓 小松丑治墓

墓標(案内板)設置

秋水顕彰会では、秋水以外の高知県出身大逆事件犠牲者4人の顕彰活動も行っている。

岡林寅松、小松丑治は高知市生まれで同じ小学校同級生。ともに神戸に出て、神戸平民倶楽部を結成して活動する中で、大逆事件に連座させられた。

死刑判決を受けたが、翌日無期懲役に減刑され、20年間入獄したあと、仮釈放された。以後も差別と偏見の中で不遇生活を送り、小松は昭和20年、岡林は昭和23年、没した。

高知市内にある2人の墓には昭和38年、国民救援会が木製墓標を建てたがいまはなくなっているため、6月、「高知市自由民権友の会」の協力をえて共同で、アルミ製墓標(案内板)を設置した。

山ノ端町にある岡林墓は寅松妹の孫徳弘達男さん(写真右)が墓守をされて



岡林墓



小松墓

おり、設置当日もおいでいただき、みんなで手を合わせた。

小石木町(筆山)の小松墓は、いま墓守がない。周囲が林に隠れわかりづらいことから、林入口と墓の2方所に標識を設置した。

2人の墓参を希望される方は、ご連絡ください。案内いたします。

残る2人の高知県出身犠牲者のうち坂本清馬墓(無期懲役)は、秋水と同じ中村正福寺にあり、知る人ぞ知るであるが、案内板はないことから、来年1月15日命日に設置する。

奥宮健之墓(死刑)は東京都立染井霊園にあり、霊園入口の要人案内板の中に「旧自由党员、大逆事件で刑死」とある。生誕地の高知市布師田には先祖墓があり、地域住民が付近に案内板を建てている。

■□■□■□■□■□ 秋水墓参メッセージ □■□■□■□■□■

正福寺秋水墓隣の木箱には、秋水通信などとともに記帳ノートを入れています。今年もすでに27人の方(11月末現在)がメッセージを寄せてくれています。いくつかを紹介します。

○幸徳の思想は決して昔のものではなく、今でも大切にされるべきものです。(神奈川県男性)

○尊敬的社会主義運動先輩。従台湾来者達敬仰之義。継承追求社会主義的事業。(台湾男性3人)

○中村へ旅行で来て初めて知り、大変立派な方の墓へ参ることができ感動です。(広島県男性)

○長く旅して来た甲斐がありました。永遠に記憶されるべき存在だと思います。(徳島県夫婦)

○大変おそうじなど行き届いていて、うれしく思いました。次回もぜひ墓参したいと思います。(ドイツ在女性)

○アジア太平洋戦争後70年、日露戦争後に似た危うい動きがあります。歴史の逆流を許さないよう、学び、声をあげ、闘い続ける所存です。(東京都男性)

○よくがんばりました。ぼくも平和のためにがんばります。(和歌山県小学生)

○はじめて墓参しました。日本がだんだんおかしくなっていく時代になっています。昔の様に大逆罪が出てくることがないように、私達日本人一人一人ががんばらねばなりません。(アメリカ在女性)

○「橋のない川」を読みました。その中で「幸徳秋水 名は伝次郎」と主人公の子どもが何度も叫んでいるのが印象的で、今回夫婦で四国旅行に来て先生のお墓参りをいたしました。先生の思想は素晴らしく、とても勇気ある方だと尊敬しております。(大阪府夫婦)

○幸徳先生のお墓が地元の方々により、守られていることに感動しました。(大阪府男性)

○永年の夢の清流四万十川に来たくて、75歳にしてまいりました。神川松子の孫ですが、ここに立ち寄れて残りの人生に灯が見えます。(東京都女性)



秋水墓と木箱

定期総会

5月29日、2016年度定期総会を会員50人出席のもと、中央公民館で開き、新しい活動方針等を決定した。役員選任では、2月病氣逝去された渡辺洋事務局長の後任に田中全（前顧問）が就いた。久保知章会長以下、ほかは交代なし。

昨年退任された前会長北澤保氏と故渡辺洋氏（道子夫人代理）に対し、長年の功労に感謝状を贈呈した。

総会終了後、記念講演「秋水最初の妻と子、孫たち」（田中全）を行った。

なお、会員総数は、11月末現在221人（四十市内109人、市外112人）です。



北澤前会長、故渡辺前事務局長へ感謝状贈呈

秋水研究会

秋水研究会は1996年発足。当初は隔月でしたが、最近は毎月勉強会を開いています。顕彰会会員でなくとも参加自由、無料。ぜひご参加を。

毎月第2日曜日、午後1時半より、四十市立中央公民館で。

問い合わせ 事務局 尾崎清
(090・9458・7833)

今年のテーマと今後の予定

2016年

1月 秋水「廿世紀の怪物帝国主義」

2月 同

3月 同

4月 秋水「死刑の前」

5月 田岡嶺雲

6月 余はいかにして秋水信徒となりしか（会員広井健二）

7月 石川啄木

8月 小林多喜二と伊藤整、そして小樽

9月 木戸明没100年記念講演会

10月 平出修

11月 秋水史跡めぐり

12月 大逆事件サミット報告

2017年（予定）

1月 近代民主思想の系譜

2月 龍馬、兆民、秋水

3月 西村ルイ（秋水最初妻）ゆかりの福島県安積訪問報告

平沼騏一郎と大逆事件

新刊紹介

これまで須賀子を扱った論評や小説等を広く検証し、その多くが国家権力の思惑に一部関係者の意図的な著述（寒村自伝）等が加わってつりあげられた「虚像」を前提にしているとし、女性解放運動や社会改革運動の魁としての「実像」を描き出している。

秋水顕彰会からも、尾崎清、田中全が寄稿。



大逆事件 管野須賀子と大逆事件
尾崎清、田中全出版
尾崎清、田中全編著

著者4冊目のエッセイ集。秋水孫の墓参に立ち会った感慨を綴った「恩讐を超えて」、裁判所庭から枝を延ばした秋水墓をつつみこんで咲く桜を自ら命名した「秋水桜」は、郷土の先人幸徳秋水に深い敬愛と思慕の念をいだく著者ならではの。ほかに、「秋水の友人・知人たち」、「秋水の詩と書」など。



群青（秋水顕彰会尾崎清）
左山遼（秋水顕彰会尾崎清）
左山遼、尾崎清編著

ご案内

幸徳秋水刑死

106周年墓前祭

日時 2017年1月24日

午後0時半〜1時半

場所 四十市中村 正福寺

同記念講演会

日時 同日午後2時〜4時

場所 四十市立文化センター大会議室

講師 別役佳代（土佐史談会会員）

演題 田岡嶺雲と幸徳秋水

同じ土佐人で万朝報同僚、森近運平との交流など、二人の思想と行動に迫る



編集後記

前会報でご案内したとおり、今号から「秋水通信」は「会報秋水」と合併し、新生「秋水通信」（題字変更）として、今後年2回発行いたします。（田中全）



田岡嶺雲